

③玉来川総合流域防災事業

～水辺空間を活かした魅力ある地域の交流空間「たまりバたけた」の整備～

受賞機関 大分県
竹田市

キーワード 玉来川かわまちづくり、たまりバたけた、河川空間のオープン化

全建賞審査委員会の評価ポイント

平成24年九州北部豪雨で被災した文化会館の復興を契機に、県・市・地域住民が協働して公園・道路・河川空間を一体的に整備するとともに、都市・地域再生等利用区域の指定により民間活動を可能とし、持続的ににぎわい創出と地域振興の拠点を形成するかわまちづくりを実現した点が評価された。

1. はじめに

大分県竹田市は、古くから城下町として栄え、歴史的風情や文化資源が多く残されている。その中心的役割を担ってきた文化会館が、平成24年の九州北部豪雨で被災したことから、復興のシンボルとして総合文化ホール「グランツたけた」にリニューアルされた。加えて、隣接する道路や公園の整備も同時に行われ、ここを拠点とするまちづくりが進められてきた。

本事業は、このエリアの魅力を更に高めるため、周辺の玉来川河川敷を含めた空間の一体的な利活用を目指して実施した。大分県・竹田市・地域住民が協働で「かわまちづくり」に取り組むことで、河川空間が持つ自然と調和した景観を活かしながら、地域全体のにぎわいを創出し、地域振興に資する場として再生を図った。

2. 事業の概要

玉来川を市民にとってより親しみやすい憩いの場とするため、河川管理を担う県とまちづくりを推進する市が緊密に連携し、学識経験者、地元自治会、PTA、まちづくり団体、商工会議所等の多岐にわたる関係者が参加する「かわまちづくり検討会」やワーキング部会を設置して議論を交わした。

ワークショップやアンケート調査を通じて地域の意見を丁寧に集め、完成後の利活用や維持管理の観点も踏まえた施設整備計画を策定した。この計画に基づき、県は護岸、遊歩道、階段等の基盤整備を、市はパーゴラ、ベンチ等の施設整備をそれぞれ分担して実施した。



施設整備の状況



事業箇所の空撮

3. 事業の成果

本事業により、親水広場等の施設整備に加え、行政と地域団体・学識者等との協働が活発化し、地元主体のイベント開催や河川空間のオープン化が実現した。この結果、民間事業者の参画による維持管理コストの低減が可能となり、河川空間を最大限に活用したにぎわいの創出と地域振興につながる仕組みを構築できた。

また、完成後は日常の利用にとどまらず、マルシェ、屋外ライブやヨガ教室等、多様なイベントが開催され、県内外から多くの来訪者を集めている。さらに、河川に隣接する公園「竹の子ひろば」と一体となり、家族連れをはじめとする幅広い世代が訪れ、地域に活気をもたらす交流拠点となっている。

4. おわりに

本事業の施設名称は、公募により「たまりバたけた」と決定された。これは、玉来地区の「たま」と、川を意味する「リバー (River)」を組み合わせた造語である。

地域と行政の連携・協働を今後も継続し、「たまりバたけた」が地域に愛される「たまり場」であり続けることを目指していく。



施設整備の状況



「たまりバたけた」を活用したイベント

賛助会員 九州建設コンサルタント(株)、(株)松井組、(株)重松組、(株)明治建設、(株)大丸建設、(有)東建設、(有)グランテック